

令和4年度第4回人間文化研究機構経営協議会 議事概要

- 日 時： 令和4年11月18日（金） 14：00～15：56
- 場 所： 総合地球環境学研究所講演室 Web 会議システム「Zoom」
- 出席者： 井上、大原、木部、栗本、小松、佐村、サーラ、田窪、武田、田島、寺前、永井、西谷、長谷川、長谷山、広渡、藤岡、堀、丸山、宮崎、山極、吉田、渡部の各委員
陪席者： 小泉、二ノ宮の各監事
事務局： 監査室長、歴博、国文研、国語研、日文研、地球研及び民博の各管理部長、本部事務局の総務課長、研究企画課長、財務課長、施設課長、研究企画課課長補佐、財務課課長補佐、その他関係職員

- 概 要：
議事に先立ち、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認等があった。また、機構長から、総合地球環境学研究所の施設見学についての意見交換があった。

議 題：

（議事概要）

- （1）令和4年度第2回議事概要について（資料1-1）
機構長から、令和4年度第2回経営協議会の議事概要について報告があった。
- （2）令和4年度第3回（書面審議）審議結果について（資料1-2）
機構長から、令和4年度第3回経営協議会（書面審議）の審議結果について報告があった。

（審議事項）

- （1）「監事候補者選考委員会設置要項」の一部改正について（資料2）
宮崎理事から、資料2に基づき、「監事候補者選考委員会設置要項」の一部改正について説明があり、審議の結果、了承された。また、機構長から、当該委員会委員のうち機構長が指名する理事として、宮崎理事と栗本理事を候補とし、経営協議会から機構長が指名する者として、長谷川委員と望月委員に依頼する旨の報告があった後、意見聴取が行われた。意見聴取の結果、特段意見が無かったことを受け、機構長から手続きを進めていく旨の発言があった。
- （2）機構長戦略室の設置について（資料3）
機構長から、資料3に基づき、機構長戦略室の設置について説明があり、審議の結果、了承された。
また、本件に関し、以下の意見があった。
 - ・ 企画戦略会議をなくすということは、全体の機構組織をシンプルにするという趣旨から出たものなのか。
⇒ これまでの企画戦略会議は、外部委員のウエートがかなり大きく、機動力に欠ける部分があったため、これからはもう少しネットワークが軽いもので企画は練り、その後、外部委員も含めた委員会、あるいは機構会議といった場で検討していただきたいという趣旨である。
 - ・ 今後は機構長室で情報収集・分析を通してつくられた案を、教育研究評議会や経営協議会で検討していくというやり方になっていくが、機構にとって重大な関心事が起きた場合に、どういう進め方をするのか。
⇒ 教育研究評議会や経営協議会は、現在年に3回開催されており、回数が少なく、頻りに臨時を開くことも難しいため、検討中の外部評価委員会を工夫する必要があると考えている。
 - ・ 外部評価委員会とは、現在無い委員会であり、今後設立予定のものなのか。
⇒ 現在、外部評価委員会は存在するが、評価委員の人数が少ないため、委員会をもう少し十分に機能させることを検討している。

- ・ 外部評価委員会は事後的に評価する場なので、企画戦略会議を解消することの代替として考えるのは、位置づけとしてはおかしいのではないか。
- ⇒ 重要な検討事項を、フットワークを軽く迅速に検討した上で、教育研究評議会及び経営協議会に諮り、外部委員の意見をもっと活発に集約したい。機構の情報が十分に伝わっていない面があり、その点からも改革していきたい。
- ・ 4名の担当理事の下に担当研究員が配置され、情報を集めて分析するという大きな作業を、担当理事ではなく、研究員が担うという理解でよいか。
- ⇒ 機構で雇用している中堅から若手の研究員に活躍してもらうことを予定している。
- ・ 経営協議会は回数が少ないため、常時、継続的に集めている情報分析の内容を、各経営協議会で参考資料として出す形にすれば、共有し意見が言えるのではないか。
- ・ 30代、40代の方の意見を聞けるような仕組みを作ったほうがよい。
- ・ 経営協議会をどのように活発化するかという議論に対する機構の考えにも触れた方がよい。
- ⇒ 今回は要約を付け足したように、少しずつ会議の方法を変えていきたい。今後は、報告事項は簡潔に行い、議論や意見収集を発展させていく方針で検討している。

(報告事項)

- (1) 令和4年人事院勧告について(資料4)
宮崎理事から、資料4に基づき、令和4年人事院勧告について報告があった。
- (2) 令和3事業年度財務諸表の承認について(資料5)
宮崎理事から、資料5に基づき、令和3事業年度財務諸表の承認について報告があった。
- (3) 令和5年度概算要求の状況について(資料6)
宮崎理事から、資料6に基づき、令和5年度概算要求の状況について報告があった。
また、本件に関し、以下の意見があった。
 - ・ 人文学をメタバースの世界に取り入れられる学問とするためには、30代、40代の人々の発想を取り入れるべきだ。
 - ⇒ 人文学でもメタバースの活用はすでに始まっており、専門家にとっても一般の人にとっても面白い仕事のネットワークを形成していきたい。
- (4) 人間文化研究創発センターの活動状況について(資料7)
宮崎理事から、資料7に基づき、人間文化研究創発センターの活動状況について報告があった。
- (5) 第3期中期目標期間に係る法人評価について(資料8)
栗本理事から、資料8に基づき、第3期中期目標期間に係る法人評価について報告があった。
また、本件に関し、以下の意見があった。
 - ・ 海外の英文学術誌に掲載される査読付き論文数の数が少ないという指摘に対する説明については、理解されたのか。
 - ⇒ 機構にとっては重要な問題なので、この問題に関わる主張は続けていきたい。
 - ・ 英文学術誌へ掲載することに対する評価について、思うところはあるかもしれないが、海外に対する発信について、少なくとも良いとは思ってはいけないと思う。
 - ・ 点数評価をするのではなく、評価の方法を抜本的に変えるべきである。
- (6) 環境報告書(令和3年度版)の作成・公表について(資料9)
宮崎理事から、資料9に基づき、環境報告書(令和3年度版)の作成・公表について報告があった。
- (7) 第4回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者の決定について(資料10)
機構長から、資料10に基づき、第4回人間文化研究機構日本研究国際賞受賞者の決定について報告があった。

以上